

Q 花巻・遠野広域連携事業の事務事業評価シートに、花巻市と遠野市とで応分の負担割合となっているという表現がある。花巻市では1125万5千円という予算が計上されているが、遠野市ではいくらの予算でこの事業に取り組んでいるのか？

A この事業は、県の地域経営推進費で、花巻遠野それぞれ事業費を1125万円とし、その3分の2は県からの補助金。事業については共同実施と個別実施それぞれ別々に申請している。首都圏における観光情報の発信は、「TIC TOKYO」への共同出展にそれぞれ同額の出展料を出しており、ミニイベントは、花巻市が主体的にイベントを実施し、遠野市は人的派遣ということ、当市のほうが多く負担している。

Q がん検診について、他市の取り組みで監視を強化し受診を勧奨した結果、効果があったようだが本市は？

A 乳がん検診で29年度8月までに未受診者2400人に対して9月に案内し、その方々に対し10月に3日間、休日、平日の夕方時間帯に受付時間を拡大しそれぞれの都合に合わせて受診できるように取り組んだ。

Q がん患者のサロン開催回数や参加人数は？

A 平成30年1月から花巻保健センターを会場にして月1回サロンを開催している。参加人数は、1回につき3〜4人となっている。

Q がん検診の受診率が低い要因は？

A 仕事のスケジュールに検診日程が合わないことやがんに対する

だが、遠野市は独自に先人を称えるテレビ番組を作成したということ、その分多く負担している。観光ルートの景観保全は、松くい虫の木の伐採である。

Q スポーツツーリズムによる地域振興については、遠野と花巻で連携したPRを行っている。

Q イーハトープ花巻応援寄附金推進事業で、実績が昨年よりも下がっているという状況から、花巻市の返礼品に、魅力が足りないのではなにかと感じるが、当局としての感触は？

A 北上市の寄付金額は本市よりも大変多い。記念品を見ると、ティッシュや野菜のセットなど、家庭で喜ばれるような品数をそろえているように思われる。

本市は、花巻の特産品を宣伝するという大前提があり、食べ物であればおいしく見えるような写真の使い方、返礼品の数

量や金額、宣伝の仕方、見せ方についても今後留意して寄付金額の確保に努めていきたい。

Q ふるさと納税について、寄付という部分は一つの目標でもあるが、それを通じて花巻市を知ってもらおうとか、花巻市の特産品の購入につながるという考えは？

A つながり、交流を持つということについては、重要なこと。このような事業に使用したということホームページで公表しているが、29年度からは、その寄付を受けた方々全員に対して、寄付金の使途、今後ともお願いますという文書も添え、再度お礼状を出した経緯がある。

Q 寄付された方とのつながり、交流を持つことについては、重要なこと。このような事業に使用したということホームページで公表しているが、29年度からは、その寄付を受けた方々全員に対して、寄付金の使途、今後ともお願いますという文書も添え、再度お礼状を出した経緯がある。

若者の雇用と地元定着とあるが、決算額が10万8千円とわずか。これで育成が図られるのか？

A 現在は高校生を対象とした予算を組んでいるが、もう少し若い世代にも職業感を養う育成をしていきたい。

Q 市内の人手不足、雇用現況は？

A 平成29年度の平均有効求人倍率は1.7で過去の例からして突出した数字であるが、後継者不足、人材不足という情報は入っている。

Q 北上市の大型誘致企業の影響で花巻市の雇用、労働環境の変化が懸念されるがどう考えるか？

A 人手不足を解消するために、生産性向上に向けた設備投資の課税免除の取り組みを行っている。また、高校生の雇用増が考えられることか

Q 高齢者運転免許返納支援事業について、310人の免許の返納があったようだが、返納者の居住地による特徴、310人の年齢層は？

A 免許の返納者に関して、地域別の統計は、警察でも把握していないため、お答えできない。

平成29年12月31日現在の返納者の年齢別は310人のうち75歳以上が244人。70歳以上74歳未満が47人、65歳以上70歳未満が19人となっている。

【65歳以上の高齢者の方へ】
運転免許証 自主返納促進事業
バス・タクシーの運転に利用できる助成金1万円分を交付します。
対象となる方
●対象となる方
●対象となる方
●対象となる方

子育て・保育

Q 家庭児童相談事業の児童虐待通告の

詳しい状況は？

A 一般市民、幼稚園や保育園、小学校から通告があり、平成29年度においては、「顔に傷があった、あざが見られた」等の通告がなされた。

Q 保育力充実事業を活用しての保育士の復職、保育士不足の状況は？

A 平成29年度中に支援に登録した人数は20名。うち、貸付金を利用した方は3名、復職、再就職された方は4名。保育士不足について、どの園で保育士が不足しているかは具体的に把握していない。

保育する園児の年齢によって必要な保育士の数が変わるが、本年3月の待機児童数をもって推計すると、24名程度の保育士があれば保育が可能であろうと考える。

健康づくり

Q 健康診査事業において子宮頸がんの受診率が下がっている理由は何？

A 旧3町に関して、医療機関・検診車のどちらでも受けられるような受診票を送付して、利用環境の整備を図ってきた。しかし、結果的に低下してきている状況であり、30年度は更に受診環境の拡大を図るため、啓発に力を入れていきたい。

Q がん検診の目標値や実績値は国民健康保険加入者のみで算出しているのか？

A 国民健康保険に限らず、全市民を対象として目標値・実績値を定めている。しかし、市で案内をして検診を受けた方のみで算定しており、低い実績値となった。

全国的には国民健康保険及び社会保険等での検診者のデータベース化の動きもある。

Q 近年における新規就農者数は？

A 平成26年が16人、27年が15人、28年が15人、29年が16人で年代別は把握していない。

Q 新規就農者には支援があるが、支援が終了する5年を過ぎて離れた方は？

A 国から青年就農給付金、次世代人材投資資金による支援があるが、交付を受けて離農した方はいない。

Q 29年度の有害鳥獣捕獲頭数が大幅に減少した原因と、捕獲に対する報奨金のような制度は？

A カラスの捕獲が半減しているため、シカは昨年267頭から今年は540頭と増えている。

Q 有害鳥獣による農作物の被害額はどの程度か？

A 全体で8600万円程度、主な内訳は

Q 有害鳥獣による農作物の被害額はどの程度か？

A 全体で8600万円程度、主な内訳は



新規就農者拡大で本市の農業の将来を支える